



学校だより

令和8年 3月 1日
東京都立村山特別支援学校
校長 阿部 智子

〒208-0012
武蔵村山市緑が丘 1460 番地1
電話：042-564-2781

「駆け抜ける3月、頑張ったことを振り返ろう」

2月の最終週、三連休は初夏のような暖かさ、その後は冷たい雨の降る三寒四温のこの季節、花粉症の時期も重なって、ため息をつくばかりです。

駆け抜ける3月、1年のまとめをするこの3月は、忙しくしているとあっという間に過ぎ去ってしまいます。だからこそ、季節も、生活も大きく変わる3月から4月の季節をゆっくりと見直して、「変化に対応した新しい習慣を作る」期間としてリズムを整えていくことが大切だと思います。



【今年度の村山の卒業式】

3月になり、少しずつ卒業式、修了式の準備を進めています。式場となる多目的室の天井にあるスプリンクラーの破損によって、今年度は3月に入ってから壇上を組み立て、式場での練習も本格的に始めます。

コロナ禍を経てもなお、インフルエンザなどの感染症のリスク対応は丁寧に行いながらの儀式的行事となります。今年度は、来賓の皆様や保護者の皆様、教職員、児童・生徒の式場内でのマスク着用を行わず、子供たちの笑顔の表情がしっかりと御覧いただける形での卒業式とさせていただきます。

今年度も、高等部は高1、高2の在校生全員が参列して、在校生代表の「送辞」を卒業生が受け止め、卒業生代表の「答辞」を学校に残る在校生にしっかりと伝えられるような場面を大切にさせていただきます。小学部・中学部は在校生代表生徒が参列して卒業生への「送る言葉」をしっかりと伝え、小学部・中学部のそれぞれの学部の代表児童・生徒が「門出の言葉」を述べる形となります。言葉を大切にしようと取り組んできた「チーム村山」だからこそ、今年も子供同士の言葉の力を育むための準備に力を入れています。どの学部も卒業学年の教職員にとっては思いが強く、最後の授業として、笑顔あふれるものにしたいと考えています。御理解、御協力のほどお願いいたします。

【卒業式で卒業証書を授与するということ】

卒業証書は小学部・中学部・高等部、各学部の全課程を修了したことを証明する証書です。証書の様式や内容は教育委員会が決めていて、氏名と生年月日が明記されます。発行に当たっては永年保存と定められている卒業証書授与台帳が基となり、大切に校長室にある金庫で保管されています。卒業証書の作成は、経営企画室の担当者が入念な準備をし、夏休み前から証書の準備は始まり、卒業式まで半年ほどかけて作成されています。

卒業証書は証明書であるため敬称(～様、～殿、～君、～さん)は付記されません。一方で表彰状や賞状等には敬称が付きます。証書と賞状は大きく異なるものなのです。卒業証書には開校以来の証書番号が左上に入り、その上には割印が押されます。学校名と校長名は、今年度も、校長が毛筆で記入しました。公印が押された一枚一枚が、大切な卒業の証明書となります。

卒業証書授与時には、お祝いに駆け付けてくださったお客様である保護者の皆様や来賓の前で、校長が卒業証書を読み上げ、(身内の)卒業生に授け(授与)します。贈呈ではなく授与ですから、(身内の)卒業生の氏名には敬称を付けません。決して呼び捨てではなく丁寧に卒業生の氏名を、全集中で心を込めて読み上げたいと思っています。

それぞれの学部を巣立つ前の、最後の学習に臨む卒業生の、自分なりの返答は、単なる点呼ではありません。卒業生の「思考・判断・表現」を我々教職員が受け止める、卒業生の姿と言葉が会場にいる皆様の心に響く、大切な場面となります。卒業生も在校生も、一挙一動、丁寧に真剣に練習をして本番に臨みます。ぜひ、大きな拍手で各学部の全学業を成就した卒業生をほめていただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

校長 阿部 智子